ICAN スタディツアー

私は５日間フィリピンでスタディツアーに参加しました。私が現地で見たこと、感じたことを紹介します。

初めにゴミ山があるパヤタスとモンタルバンを訪れました。この写真はゴミ山に登ってまだ使えるものを探したりして生計を立てているスカベンジャーの写真です。スカベンジャーとして働かないと、今日を生き延びのびることができないほど過酷な環境なのです。現地の方に話を聞いたときに１０歳で子供を産み今はもう、その子供とは会っていないと言っていました。けれど今は隣人の子供の世話をしているそうです。他にも知らない子供が家に来ても一緒にご飯をたべることもあるそうです。この話を聞いてフィリピンは地域の絆がとても強く、助け合いの精神がある国だと知ることができました。

フィリピンの公用語はタガログ語で「私の名前は」は Ako po si ,「ありがとう」は Salamat po といいます。この二つは現地で一番よく使いました。
食事は米が主食なので日本と変わらずおいしく食べることができました。フルーツはとても新鮮でランブータンというライチのようなものがとてもおいしかったです。毎食といっていいほど料理に豚肉が使われていました。全部柔らかくて、上げ焼きやおかゆに入れて食べました。子どもの家という宿泊施設では写真のようにバイキング形式でお腹いっぱい食べました。家に住んでいる子たちと一緒に学校の話や将来の夢の話をしながら楽しく食べました。フィリピンは日本と同じ音楽や美術の選択科目があると教えてくれました。みんなとても明るくて笑顔いっぱいの子どもたちでした。

路上の子どもたちと交流をした際、普段物乞いをしたり物を売っている姿を想像できないくらい温かい笑顔を見せてくれました。私にはこの子たちの笑顔を守るためになにができるのだろうと考えるきっかけになりました。

初めてごみ山をみたとき言葉では表せることができないくらい衝撃が走りました。今の私にはできることが少ないけれど、今だから伝えられることがたくさんあると思いました。今までは私自身も貧困などに対しで同情していたけれど、同じ人間という対等の立場で向き合い、一緒に解決していくことの大切さを学びました。
Not FOR the people but WITH the people